

KANUMA NO MEISHO

鹿沼の

名匠



吉原 直幸

よしはら

なおゆき



吉原 直幸

吉原直幸さんは、兄の秀美さん、弟の友也さんと3人そろって鹿沼の名匠に認定されました。父で師匠でもある幸二さんの下で修業を積み、栃木県伝統工芸士にも認定されています。

高校を卒業し18歳で入社するまで、鹿沼組子にはあまり興味がなかったという直幸さん。自分で製作する側になったとき、「父はこんなに素晴らしいものを作っていたのか」と感動したそうです。

鹿沼組子は、木工のまち鹿沼を代表する工芸品の一つ。木の小片を無数に組み合わせ、麻の葉、胡麻柄、亀甲などの模様を作り出します。欄間、書院障子、つい立など主に和の建築に使われ、空間を引き締めます。

作業場で目を引くのは、特徴的なV字型の刃を持つ^{かんな}鉋。模様によって小片の形を変える必要があるため、V字の角度の異なる大小30以上の鉋を使い分け、小片の端に角度を付けていきます。

製作に当たり、最も重要なこととして3人が口をそろえるのが、一つ一つの小片の精度。わずかでもくるいがあると全体がゆがんでしまうため、木の収縮までも考慮しながら微調整を繰り返し、組み上げていきます。

磨き抜いた技術と経験が、鹿沼組子の美しい幾何学模様を生み出しています。和風建築が減っている中、鹿沼組子の良さを知ってもらうため、洋風の空間への提案や、携帯電話スタンド等の小物の開発にも取り組んでいます。

この道に入って26年。幸二さんの下、兄弟とともに修業を積み、現在ではその技術と伝統を支える一員です。

「製作者次第で、無限大にさまざまな形を作ることができる。今後は新しいデザインの開発にも挑戦していきたい。また、伝統を守るだけでなく、新しいものも提案していきたい」と目標を話します。

◆ 鹿沼組子製作

☆ 鹿沼市